

# 私立幼稚園の新制度への円滑移行について

私立幼稚園が、市町村が実施主体である新制度に円滑に移行できるよう、以下の事項に留意して対応

## 主な課題

## 対応

市町村と幼稚園の関係構築、  
体制整備

- 市町村による私立幼稚園の状況把握、関係構築等
- 都道府県(私学担当)による市町村への支援
- 地方版子ども・子育て会議等への幼稚園関係者の参画

計画に基づく  
認定こども園や新制度への円滑な移行支援

- 都道府県等計画における必要量(ニーズ)が供給を下回っても、認定こども園への移行希望を踏まえ、計画の必要量に上乗せして、都道府県による認可が受けられる仕組みと運用の確保
- 新制度への移行の時期は、27年度に限られず、いつでも可能(意向は毎年確認予定)
- 調理施設等の施設整備支援や認定こども園の運営費支援などの積極的な活用

施設型給付の適正な実施  
(公定価格の「二階建て」(注)対応)

- 標準的な給付水準を踏まえた国基準に基づき国庫負担・補助額や地財措置を設定
- 市町村は、国基準に基づき市町村の給付額を設定
- 仮に、国基準と異なる額を設定する場合には、費用等の実態を十分に踏まえるとともに、下回る場合には合理的な理由説明を実施

- 給付額の設定・一時預かり単価・条件等について、国基準と異なる場合は、市町村の子ども・子育て会議等で審議
- 都道府県の子ども・子育て会議等で、域内市町村の実施状況等を報告・審議
- 国において、各市町村の額や理由などの実施状況を調査・公表

一時預かり事業(幼稚園型)  
の適正な実施

- 幼稚園の実施状況、意向等を把握し、保護者のニーズに基づく事業の実施が必要。特に、新制度への移行により幼稚園の預かり保育・一時預かり事業の利用が継続できず、保護者の混乱を招くことのないよう十分な配慮が不可欠。
- 仮に、市町村が何らかの条件等を設ける場合には、保護者のニーズ等を十分に踏まえた合理的な理由説明を実施

(注)教育標準時間認定子ども(1号認定子ども)に係る施設型給付費の額は、当分の間、市町村が定めることとされ、その財源構成は、国及び都道府県が3/4を負担する「一階部分」と、都道府県が一定割合を補助する「二階部分」に分かれる。

# 子ども・子育て支援新制度における幼稚園の選択肢

		位置付け・役割	施設の認可・指導監督等		財政措置	選考・保育料等の取扱い
			(認可)	(確認)		
新制度	「施設型給付」を受ける認定こども園  (幼保連携型) (幼稚園型)	○学校教育と保育を提供する機関 (幼保連携型) : 学校と児童福祉施設の位置付け (幼稚園型) : 保育機能を認定  ○市町村計画で把握された「教育・保育ニーズ」に対応	○幼保連携型 都道府県・指定都市・中核市が、認可・指導監督  ○幼稚園型 都道府県が認可・認定・指導監督	○幼保連携型・幼稚園型共通 「給付の支給対象施設」として、 <u>市町村</u> が確認・指導監督	○「保育の必要性」の認定を受けた利用者 : 「保育時間」に対応する「施設型給付」※ <sup>2</sup>  ○その他の利用者 : 「標準時間」に対応する「施設型給付」※ <sup>2</sup>  ○私学助成 (特別補助等)※ <sup>3</sup>	○応諾義務 * 定員を超えた場合は、選考可  ○利用者負担は応能負担 * 一定の要件の下で上乗せ徴収可
	「施設型給付」を受ける幼稚園	○学校教育を提供する機関  ○市町村計画で把握された「教育ニーズ」に対応	○都道府県が認可・指導監督	○「給付の支給対象施設」として、 <u>市町村</u> が確認・指導監督	○「標準時間」に対応する「施設型給付」※ <sup>2</sup>  ○私学助成 (特別補助等)※ <sup>3</sup>	
現行どおり	「施設型給付」を受けない幼稚園※ <sup>1</sup>	○学校教育を提供する機関	○都道府県が認可・指導監督		○私学助成(一般補助・特別補助)  ○幼稚園就園奨励費	○建学の精神に基づく選考  ○価格は設置者が設定

※<sup>1</sup> 現行の私立幼稚園は、特段の申出を行わない限り「施設型給付」の対象として市町村から確認を受けたものとみなされる。

※<sup>2</sup> 「施設型給付」は国等が義務的に支出しなければならない経費であり、消費税財源が充当される。

※<sup>3</sup> 特別支援教育や特色ある幼児教育の取組等に対する補助を予定。

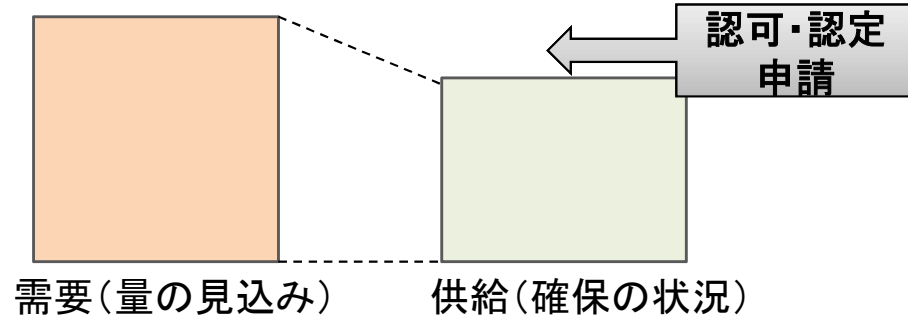
# 自治体計画と認可・認定の関係(認定こども園への移行特例)

○ 都道府県は、一定区域ごとに、需要(量の見込み)と供給(確保の状況)の状況に応じ、以下のとおり、認定こども園・保育所の認可・認定を行う。

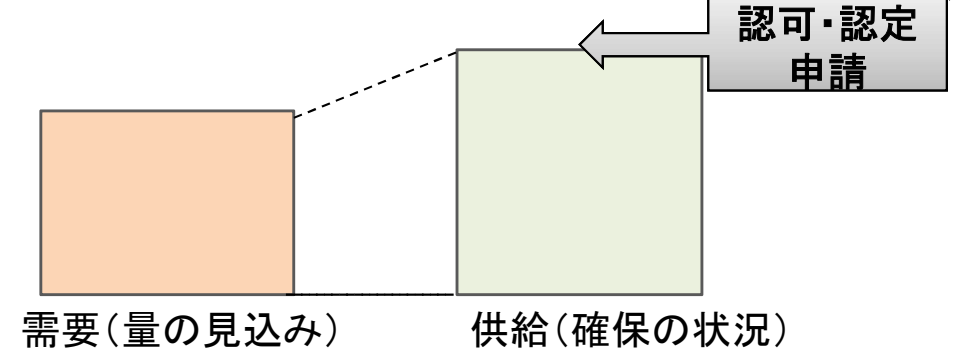
※ 指定都市・中核市においては、都道府県と同様に、市町村計画に基づき幼保連携型認定こども園・保育所の認可を行う。

※ 地域型保育事業については、市町村が市町村計画に基づき同様に認可を行う。

需要 > 供給 → 原則認可・認定  
(適格性・認可基準を満たす申請者である場合)



需要 < 供給 → 認可・認定しないことができる  
(=需給調整)



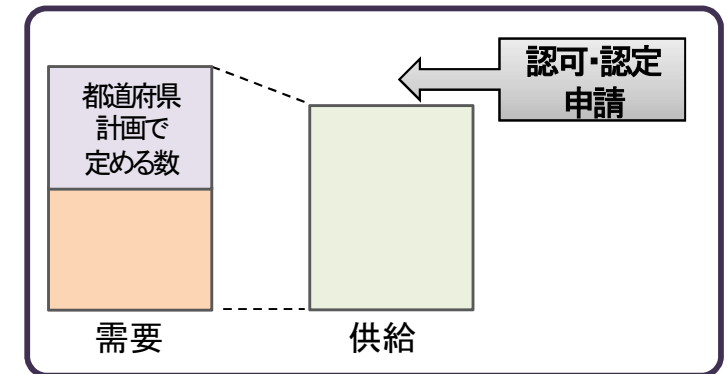
○ 既存の幼稚園・保育所が認定こども園へ移行する場合

需要 + 「都道府県計画で定める数」 > 供給

→ 原則認可・認定(適格性・認可基準を満たす申請者)

※ この「都道府県計画で定める数」は、幼稚園・保育所から認定こども園への移行を促進するため、現在の施設の利用状況や認定こども園への移行に関する意向等を踏まえて設定。設定に当たっては、地方版子ども・子育て会議等の議論を通じて透明性を確保。

※ 幼保連携型認定こども園については「指定都市・中核市の計画で定める数」。



# 教育標準時間認定の子どもに係る施設型給付の構造（公定価格及び利用者負担）

- 教育標準時間認定（1号認定）の子どもに係る施設型給付については、幼稚園に係る現在の国・地方の費用負担状況や都道府県間のばらつきを踏まえ、円滑な移行のために、当分の間、全国统一費用部分（義務的経費）と地方単独費用部分（裁量的経費）を組み合わせる施設型給付として一体的に支給することとされている。（子ども・子育て支援法附則9条）

「施設型給付費」 ≡ 「公定価格」（通常要する費用）－「利用者負担額」（応能負担）

うち 「施設型給付費」（全国统一費用部分）＝「国庫負担対象額」－「利用者負担額」

「施設型給付費」（地方単独費用部分） ≡ 「公定価格」－「国庫負担対象額」

## 「公定価格」（\*1）

教育・保育に通常要する費用の額を勘案して設定

「公定価格」と「国庫負担対象額」の差額、地域の実情等を参酌して市町村が定める額

## 「国庫負担対象額」

現行の私学助成の国庫負担額、保護者負担、所在地域等を勘案して国が設定した基準により算定した額

## 施設型給付費

（地方単独費用部分）

市町村負担＋都道府県補助（\*2）

## 施設型給付費

（全国统一費用部分）

国：都道府県：市町村＝2：1：1

## 利用者負担額

（応能負担）

実費・上乗せ徴収

## 「施設型給付」

全国统一費用部分・地方単独費用部分を一括して支給

市町村から代理受領

## 「利用者負担額」

国の基準を限度として、保護者世帯の所得等を勘案して市町村が定める額

保護者から徴収

一定の要件（理由の開示等）の下で施設が定める額

（参考）

保育認定（2号認定・3号認定）の子ども

## 施設型給付費

国：都道府県：市町村＝2：1：1

## 利用者負担額

（応能負担）

実費・上乗せ徴収

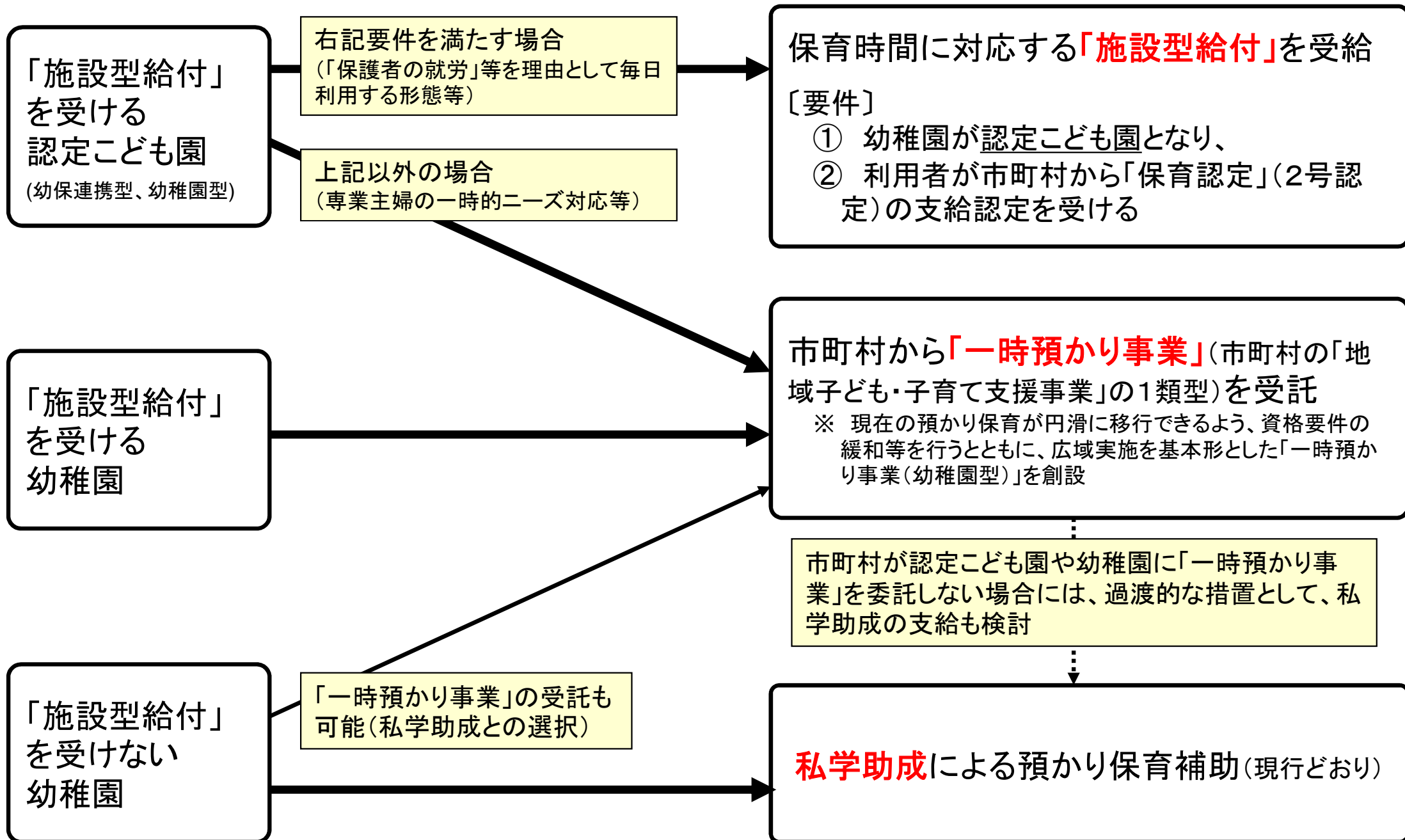
## 「公定価格」

教育・保育に通常要する費用の額を勘案して設定

\*1 国において「公定価格」（通常要する費用）を告示する。

\*2 都道府県補助・市町村負担に係る地方財政措置の標準単価を示す。  
（地方単独費用部分も含め、国の定める公定価格に係る基準に基づき設定予定）

# 幼稚園の「預かり保育」の新制度における取扱い



(注) 私学助成を受けることができるのは、原則として、学校法人立の私立幼稚園に限られる。